

Veritas NetBackup™ リリースノート

リリース 8.1

マニュアルバージョン 1

Veritas NetBackup™ リリースノート

法的通知と登録商標

Copyright © 2016 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティ（「サードパーティプログラム」）の所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

.

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供

されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.doc@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 8.1 について	9
	NetBackup 8.1 のリリースについて	9
	NetBackup の最新情報について	10
	NetBackup サードパーティの法的通知について	10
	NetBackup のサードパーティコンポーネントについて	10
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	12
	NetBackup の新しい拡張と変更について	12
	NetBackup 8.1 の新機能、変更点、拡張機能	12
	NetBackup での安全な通信について	15
	ホスト ID からホスト名へのマッピング	15
	安全な通信によるカタログリカバリ	15
	NetBackup 8.1 マスターサーバーと OpsCenter 8.1 マスターサーバーの間の通信	16
	ホスト間通信のための NetBackup 要件	16
	対象設定された自動イメージレプリケーションの信頼できるマスターサーバーの追加における双方向の信頼	17
	非武装地帯の NetBackup クライアントとマスターサーバーの間の安全な通信	17
	重複排除データのクラウドへのアップロードのための NetBackup CloudCatalyst の導入	18
	NetBackup アクセラレータを使った Isilon ファイラの完全バックアップの高速化	19
	SLP に導入された自動イメージレプリケーション (A.I.R.) インポート確認機能	19
	nbdeployutil による正確なライセンス機能とその他の更新	20
	NetBackup に導入される新しい BigData ポリシー形式	20
	複数の NetBackup 製品、機能、プラットフォームの End-of-Life	20
	NetBackup 8.1 の追加サポート	22
	NetBackup BMR 機能が NetBackup 8.1 によるクライアントのリストアでサポートされていない	22
	NetBackup 8.1 での DHCP クライアントサポートの変更	22
	Linux 仮想マシンの SYMCquiesce ユーティリティのサポートは終了しました	23

いくつかのシャットダウンコマンドが将来のリリースで廃止される予定	23
csconfig コマンドのローカリゼーションサポートの追加	23
NetBackup マスターサーバーの新しい最小システム要件	23
MSDP のフィンガープリントアルゴリズムの変更に関するアップグレードの考慮事項	24
NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある	24
SCCM と Chef の配備ツールとマニュアルが利用可能になりました	24
メディアサーバーと SSO デバイスの構成手順の変更	24
インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1 にアップグレードする	25
Amazon クラウドストレージサーバーのオブジェクトサイズの変更	25
クラウド関連の追加の拡張機能	26
VMware バックアップからディスクを除外するための新しいオプション	27
VMware の[仮想マシンのディスクのリストア (Restore Virtual Machine Disks)]ウィザード	27
VMware での ASCII 以外の文字のサポート	28
クラスタ化されたファイルシステム、データベースクラスタ、分散データベースアプリケーションの新しい要件	28
[分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)]ホストプロパティの構成	29
SQL Server クラスタと SQL Server AG のポリシーとその他の設定の変更	29
NetBackup データベースのスクリプトベースポリシーで使用する承認を受けた場所の登録	30
DB2 OPTIONS コマンドの更新	30
NetBackup 8.1 の最新の状態コード	31

第 3 章

操作上の注意事項	32
NetBackup 8.1 の操作上の注意事項について	32
NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	33
PBX のバージョンが NetBackup のバージョンと互換性がない場合にサービスが開始できないかまたはバックアップが失敗する	33
インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしない	34
HP-UX ItaniumのvPars SRPのコンテナのサポートについて	34
AIX 7.1 で起きる可能性がある Java エラー	34
NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	35

NBAC が有効な 8.0 以前のマスターサーバーとの接続が失敗する場合がある	35
ホスト ID からホスト名へのマッピングで大文字と小文字が区別されない	36
2.6 より後のカーネルバージョンで実行している SUSE 11 で起きる問題	36
IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項	36
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	37
NetBackup 管理コンソールを実行するためのメモリ要件	37
複数のバージョンの NetBackup 管理インターフェース	37
リモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、「操作がタイムアウトしました」というメッセージが表示される	37
X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある	38
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する	38
NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する	39
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合がある	39
NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項	39
マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントサーバーの Accelerator バージョンの必要条件	39
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	40
NetBackup 8.0 以前のクライアントがある AIX および HP-UX プラットフォーム上で NetBackup 8.1 を BMR ブートサーバーとして使用して共有リソースツリー (SRT) を作成すると失敗する場合がある	40
ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備している場合、SRT の作成は失敗することがある	40
システムブート中や BMR の初回ブート中に Solaris 11 の多くのサービスが警告メッセージを表示する	40
BMR のリストア後の初回ブート時に、Solaris 11 以降の Solaris ゾーンリカバリを再構成するまでに時間がかかる	41
テキストインストーラのパッケージがカスタマイズされた AI ISO 内に存在しない場合、Solaris BMR のリストア操作に失敗する	41
複数のデバイスに基づく OS 構成では /boot パーティションが独立したパーティション上になければならない	41
ZFS ストレージプールを使ったクライアントのリストア後、初回のブート中に、複数のエラーメッセージが表示されることがある	42

BMR が ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しないことがある	42
自動イメージレプリケーションおよび BMR を使って保護する場合のクライアントの短縮名の指定	42
クライアントリストアの成功後もリストアタスクがディザスタリカバリドメインに完了状態で保持されることがある	43
BMR の IPv6 サポート	44
リストア後に HP-UX の自動ブートに失敗することがある	44
Solaris クライアントのリストア準備が機能しないことがある	45
NetBackup クラウドの操作上の注意事項	45
Amazon クラウドプロバイダ用の nbclidutil ユーティリティを使用してパケットを作成するときに不正なエラーメッセージが表示される	45
IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 が実行されているホストで Rackspace プラグインが使われている場合、ネットワーク接続問題が発生することがある	45
NetBackup クラスタの操作上の注意事項	46
Solaris クラスタ設定でリソースに不具合があった後、NetBackup サービスが同じアクティブノードで起動する場合がある	46
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項	46
NetBackup for Exchange の操作上の注意事項	47
NetBackup の操作上の注意事項	47
NetBackup for Oracle の操作上の注意事項	49
NetBackup 重複排除に関する注意事項	49
信頼を更新せずに信頼できるマスターサーバーを削除すると、エラーメッセージが表示される	50
信頼できるマスターサーバーを追加するときに状態コード 6 メッセージが表示される場合がある	50
NBAC が有効なときに NDMP イメージの複製が失敗する場合がある	50
SHA-2 アルゴリズムを使用するデータのリストアに関する追加の制約	50
NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	51
データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズされた環境のサポート	51
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	52
Isilon NDMP バックアップから代替パスにリストアするときにエラーが発生することがある	52
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある	53
NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	53
NetBackup for VMware の操作上の注意事項	53

付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	56
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	56
	SORT の新規インストールのための推奨手順	57
	SORT のアップグレードのための推奨手順	61
付録 B	NetBackup のインストール要件	64
	NetBackup のインストール要件について	64
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	66
	NetBackup 8.1 のバイナリサイズ	70
付録 C	NetBackup の互換性の要件	73
	NetBackup の互換性リストと情報について	73
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	74
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	76
	NetBackup の関連マニュアルについて	76
	NetBackup リリースノートについて	77
	NetBackup 管理者ガイドについて	77
	NetBackup オプションの管理について	77
	NetBackup データベースエージェントの管理について	80
	NetBackup のインストールマニュアルについて	81
	NetBackup の構成マニュアルについて	82
	NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて	82
	その他の NetBackup のマニュアルについて	82

NetBackup 8.1 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.1 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)
- [NetBackup のサードパーティコンポーネントについて](#)

NetBackup 8.1 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.12 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 8.1 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正のいくつかは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 8.1 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.56 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.0 は NetBackup 8.0 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

NetBackup のサードパーティコンポーネントについて

次の表に、NetBackup 8.1 によってインストールされる最も有名なサードパーティコンポーネントの一部を示します。

表 1-1 NetBackup 8.1 のサードパーティコンポーネント

サードパーティ	バージョン
Java Runtime Environment (JRE)	■ IBM AIX (rs6000) 8.0.4.2 ■ IBM zLinux 8.0.4.2 ■ HP-UX (hpia64) 8.0.0.9 ■ Linux (RedHat、SuSE) 8u131 ■ Solaris (sparc、x86) 8u131 ■ Microsoft Windows 8u131

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 8.1 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『NetBackup リリースノート』および NetBackup の互換性リストに文書化されます。

メモ:『NetBackup リリースノート』には、特定の NetBackup バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの NetBackup へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

p.9 の「[NetBackup 8.1 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.73 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 8.1 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 8.1 の新機能、変更点、および機能強化は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 8.1 をインストールまたはアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントを必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

- 「NetBackup での安全な通信について」
- 「ホスト ID からホスト名へのマッピング」
- 「安全な通信によるカタログリカバリ」
- 「NetBackup 8.1 マスターサーバーと OpsCenter 8.1 マスターサーバーの間の通信」
- 「ホスト間通信のための NetBackup 要件」
- 「対象設定された自動イメージレプリケーションの信頼できるマスターサーバーの追加における双方向の信頼」
- 「非武装地帯の NetBackup クライアントとマスターサーバーの間の安全な通信」

新機能

- 「重複排除データのクラウドへのアップロードのための NetBackup CloudCatalyst の導入」
- 「NetBackup アクセラレータを使った Isilon ファイラの完全バックアップの高速化」
- 「SLP に導入された自動イメージレプリケーション (A.I.R.) インポート確認機能」
- 「nbdeployutil による正確なライセンス機能とその他の更新」
- 「NetBackup に導入される新しい BigData ポリシー形式」

サポートの変更点と拡張機能

- 「複数の NetBackup 製品、機能、プラットフォームの End-of-Life」
- 「NetBackup 8.1 の追加サポート」
- 「NetBackup 8.1 での DHCP クライアントサポートの変更」
- 「NetBackup BMR 機能が NetBackup 8.1 によるクライアントのリストアでサポートされていない」
- 「Linux 仮想マシンの SYMCquiesce ユーティリティのサポートは終了しました」
- 「いくつかのシャットダウンコマンドが将来のリリースで廃止される予定」

- 「csconfig コマンドのローカリゼーションサポートの追加」

システム要件の変更点と拡張機能

- 「NetBackup マスターサーバーの新しい最小システム要件」
- 「NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある」

インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「MSDP のフィンガープリントアルゴリズムの変更に関するアップグレードの考慮事項」
- 「SCCM と Chef の配備ツールとマニュアルが利用可能になりました」
- 「メディアサーバーと SSO デバイスの構成手順の変更」

クラウド関連の変更点と拡張機能

-
- メモ: 「インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1 にアップグレードする」
-

- 「Amazon クラウドストレージサーバーのオブジェクトサイズの変更」
- 「クラウド関連の追加の拡張機能」

仮想化の変更点と拡張機能

- 「VMware バックアップからディスクを除外するための新しいオプション」
- 「VMware の[仮想マシンのディスクのリストア (Restore Virtual Machine Disks)]ウィザード」
- 「VMware での ASCII 以外の文字のサポート」

データベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「クラスタ化されたファイルシステム、データベースクラスタ、分散データベースアプリケーションの新しい要件」
- 「[分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)]ホストプロパティの構成」
- 「SQL Server クラスタと SQL Server AG のポリシーとその他の設定の変更」
- 「NetBackup データベースのスクリプトベースポリシーで使用する承認を受けた場所の登録」
- 「DB2 OPTIONS コマンドの更新」

その他の通知事項

- 「NetBackup 8.1 の最新の状態コード」

NetBackup での安全な通信について

NetBackup 8.1 のホスト同士はセキュアモードでのみ通信できます。

各ホストは、CA 証明書をトラストストアに追加した後、CA と信頼を確立する必要があります。各 NetBackup 8.1 ホストが正常に通信するには、ホスト ID ベースの証明書も必要です。

ホスト ID ベースの証明書は、NetBackup のインストール中にホストに配備されます。インストール中に証明書を配備できない場合、ホストは他のホストと通信できません。この場合、インストール後にホスト通信を開始するには、nbcertcmd コマンドを使用してホスト ID ベースの証明書をホストに手動で配備する必要があります。

メモ: 環境に 8.0 以前の NetBackup が存在する場合、NetBackup 管理コンソールから [セキュリティ管理 (Security Management)]、[グローバルセキュリティ (Global Security)]、[安全な通信 (Secure Communication)] タブの順に移動して、安全でない通信を有効にできます。このタブで、[NetBackup 8.0 以前のホストとの安全でない通信を有効にする (Enable insecure communication with NetBackup 8.0 and earlier hosts)] オプションにチェックマークを付けます。

ホスト ID からホスト名へのマッピング

NetBackup 8.1 で安全な通信を正常に実行するには、すべての関連付けられているホスト名をそれぞれのホスト ID にマッピングする必要があります。ホストの NetBackup 構成のクライアント名 (つまりプライマリ名) は、証明書の配備中にそのホスト ID に自動的にマップされます。追加のホスト名は通信中に検出され、それぞれのホスト ID に自動的にマッピングされるか、[承認待ちのマッピング (Mappings for Approval)] リストに表示される可能性があります。マスターサーバーの [ホスト管理 (Host Management)] プロパティでこの設定を実行できます。

安全な通信によるカタログリカバリ

災害発生後、NetBackup 8.1 をリストアするとき、すべてのマスターサーバーのホスト ID をリカバリする必要があります。ホスト ID には、証明書の詳細やセキュリティ設定などの情報が含まれます。マスターサーバーは、以前のホスト ID がリカバリされるまで、新しい NetBackup インスタンスのメディアサーバーやクライアントと通信できません。

ホスト ID は、各カタログバックアップ中に作成されるディザスタリカバリパッケージに存在します。ディザスタリカバリパッケージは、セキュリティ証明書やセキュリティ設定などの重要な情報を含むため、パスフレーズを使用して暗号化されています。災害発生後にディ

ザスタリカバリモードで NetBackup をインストールするときは、パスフレーズを入力する必要があります。このパスフレーズは、ディザスタリカバリパッケージのリストアやカタログリカバリ中にはリカバリされません。

新しい NetBackup インスタンスで、もう一度パスフレーズを設定する必要があります。パスフレーズを設定するには、NetBackup 管理コンソールで[セキュリティ管理 (Security Management)], [グローバルセキュリティ設定 (Global Security Settings)]タブの順に移動して[ディザスタリカバリ (Disaster Recovery)]タブを使用します。ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズが新しいインスタンスで設定されない場合、カタログバックアップは失敗します。これは NetBackup 8.1 へのアップグレードにも該当します。カタログバックアップの失敗を回避するには、アップグレード後すぐにディザスタリカバリパッケージのパスフレーズを設定してください。

NetBackup 8.1 マスターサーバーと OpsCenter 8.1 マスターサーバー間の通信

OpsCenter 8.1 サーバーを使用する NetBackup 8.1 マスターサーバーからデータを正常に収集するには、次の内容を実行します。

- NetBackup 設定ファイルの OPS_CENTER_SERVER_NAME 設定オプションに OpsCenter サーバー名を追加します。UNIX では、このオプションは bp.conf ファイルに存在します。Windows ではレジストリキーです。
- NetBackup で安全でない通信を有効にします。安全でない通信を有効にするには、次を実行します。
 - マスターサーバーホスト上の NetBackup 管理コンソールで、[セキュリティ管理 (Security Management)], [グローバルセキュリティ (Global Security)], [ホスト (Hosts)]タブの順に移動して、[NetBackup 8.0 以前のホストとの安全でない通信を有効にする (Enable insecure communication with NetBackup 8.0 and earlier hosts)]オプションを選択します。
 - マスターサーバーホストで、nbseccmd -setsecurityconfig -insecurecommunication コマンドラインオプションを「on」に設定します。

ホスト間通信のための NetBackup 要件

8.1 リリースから、NetBackup のホスト間通信には次の条件が必要になります。

- NetBackup マスターサーバーが稼働している必要があります。
- NetBackup vnetd プロセスとそのプロキシプロセスが、すべての NetBackup 8.1 以降のホストでアクティブである必要があります。
詳しくは、バージョン 8.1 の『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』で vnetd プロセスに関する説明を参照してください。vnetd プロキシプロセスのトラブルシューティングに

については、『NetBackupトラブルシューティングガイド』も参照してください、マニュアルは、次の URL から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- NetBackup 8.1 のホストでは、デーモンポートの設定など、他の NetBackup ホストに接続するための接続オプションを使用しません。PBX および vnetd ポートをリモートホストに開く必要があります。

NetBackup 8.1 にアップグレードする場合は、以下の項目を理解して従うことを推奨します。

- 各ホスト間の接続は、各ホストでホスト内接続を使用します。ローカル接続では、追加の TCP ポートと TCP メモリを消費します。リソースの制限値にすでに達しているか、制限値に近い NetBackup サーバーホストは、チューニングが必要な場合があります。
- 制御プロトコルの情報を伝送するホスト間接続は、暗号化されます。AES/AES-NI または RDRAND/SecureKey 機能がある CPU では、この作業負荷をオフロードできます。

対象設定された自動イメージレプリケーションの信頼できるマスターサーバーの追加における双方向の信頼

対象設定された自動イメージレプリケーションでは、ソースサーバーとリモートターゲットサーバー間で信頼を確立するときに、両方のドメインで信頼を確立する必要があります。

- ソースマスターサーバーで、信頼できるサーバーとしてターゲットマスターサーバーを追加します。
- ターゲットマスターサーバーで、信頼できるサーバーとしてソースマスターサーバーを追加します。

より安全なメカニズムでは、信頼の確立に証明書を使用します。この場合、次の内容が該当します。

- ルート証明書の SHA1 フィンガープリントを検証する必要があります。
- 認証トークンを使用して信頼を確立できます。

この拡張機能は、NetBackup 管理コンソールと nbseccmd コマンドを通じて使用できます。詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

非武装地帯の NetBackup クライアントとマスターサーバーの間の安全な通信

NetBackup 8.1 から、メディアサーバーは HTTP トンネルを作成して、非武装地帯 (制限されたネットワーク) にある NetBackup クライアントとマスターサーバーの間の安全な Web サービス通信を可能にします。Web サービス通信が設定されると、それ以降の通

信では SSL (Secure Sockets Layer) が使用されます。NetBackup クライアントとマスターサーバーの間の安全な Web サービス通信は、セキュリティ証明書の配備と NetBackup 通信全体のために重要です。

重複排除データのクラウドへのアップロードのための NetBackup CloudCatalyst の導入

NetBackup 8.1 は NetBackup CloudCatalyst を導入しています。これは MSDP 重複排除技術を使用して、クラウドに重複排除データをアップロードします。データのアップロードは、CloudCatalyst ストレージサーバーによって行われます。これはまず、データをローカルキャッシュに格納します。このクラウドストレージサーバーは、Veritas NetBackup CloudCatalyst アプライアンスまたは NetBackup CloudCatalyst 用に構成された MSDP メディアサーバーのいずれかにすることができる専用ホストです。

表 2-1 NetBackup CloudCatalyst ストレージサーバーとして使用できるメディアサーバーの種類

ホスト	バージョン	構成情報
NetBackup アプライアンス	Veritas NetBackup CloudCatalyst Appliance	NetBackup Appliance のマニュアル
NetBackup メディアサーバー	Red Hat Enterprise Linux 7.3 以降 NetBackup 8.1 以降	NetBackup 8.1 重複排除ガイド

サポートされるクラウドベンダーおよび機能サポートに関する最新情報は、[NetBackup マスター互換性リスト](#)を参照してください。

NetBackup CloudCatalyst を使用するシナリオの例を次に示します。

- この CloudCatalyst のシナリオでは、NetBackup 環境には、MSDP ストレージサーバーと CloudCatalyst ストレージサーバーという 2 台のメディアサーバーが含まれます。
MSDP ストレージサーバーは、バックアップ中にクライアントデータを重複排除します。このストレージサーバーが、短期的なデータ保持に使用されます。ストレージライフサイクルポリシーに従い、NetBackup は最適化複製を使用して CloudCatalyst ストレージサーバーにデータをコピーします。クラウドストレージは、長期的なデータ保持に使用されます。
- この CloudCatalyst のシナリオでは、NetBackup 環境には CloudCatalyst ストレージサーバーのみが含まれています。このシナリオでは、MSDP ストレージサーバーを使用しません。代わりに、CloudCatalyst ストレージサーバーがデータを重複排除し、クラウドストレージに直接アップロードします。

CloudCatalyst の構成、管理、およびトラブルシューティング情報については、『[NetBackup 重複排除ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup アクセラレータを使った Isilon ファイラの完全バックアップの高速化

NetBackup のアクセラレータオプションを使用すると、Isilon ファイラ (OneFS 7.1、OneFS 7.2、OneFS 8.0) の NDMP バックアップを通常の NDMP バックアップよりも高速に実行できます。(これまでは、NDMP オプションのアクセラレータは NetApp ファイラでのみ利用可能でした)。NetBackup アクセラレータは前回のバックアップ以降に行われた修正を識別するファイラの変更検出技術を使用して、完全バックアップの速度を加速します。ファイラからすべてのデータを保護する初回の完全バックアップ後は、NetBackup アクセラレータはファイラで変更されたデータのためのバックアップをメディアサーバーに作成します。メディアサーバーが、変更されたデータを以前のバックアップイメージと組み合わせ、新しい完全バックアップイメージを作成します。ファイルがすでにストレージに存在し、かつ変更されていない場合、メディアサーバーは、ファイラからコピーを読み込まず、代わりにストレージ内のコピーを使用して、バックアップイメージを完成させます。そのため、NetBackup NDMP のバックアップをすばやく作成できます。

NDMP のアクセラレータについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

リリース 8.1 については、『NetBackup for NDMP 管理者ガイド』を参照してください。

各 NAS ベンダーのサポート対象バージョンの最新リストについては、『NetBackup Master Compatibility List』を参照してください。

SLP に導入された自動イメージレプリケーション (A.I.R.) インポート確認機能

NetBackup 8.1 には、対象設定された A.I.R. 操作に関連する新しいインポート確認機能が導入されています。対象設定された A.I.R. を使用すると、レプリケートされた各イメージのストレージライフサイクル (SLP) 処理が、イメージが正常にインポートされたことを確認するメッセージがターゲットドメインから受信されるまで、ソースドメインで一時的に停止されます。この機能を使用すると、少なくともターゲットドメインにイメージが安全にインポートされるまで、ソースドメインイメージがそのまま残ります。

メモ: A.I.R. 操作では、対象設定されたレプリケーションを実行する SLP を構成および操作する前に、信頼関係を確立する必要があります。NetBackup 8.1 では、この操作にターゲットドメインからソースドメインに送信されるインポート確認メッセージが含まれています。NetBackup 8.1 のセキュリティを変更するには、インポートの確認を続行する前に、この信頼関係を再確立する必要があります。

システムが以前の NetBackup リリースからアップグレードされたか、または初期インストールが実行されたかに関係なく、NetBackup 8.1 のデフォルトではインポート確認操作は有効になっていません。NetBackup 8.1 で A.I.R. インポート確認機能を有効にする方法については、次の TechNote を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127326

インポートの確認について詳しくは、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

nbdeployutil による正確なライセンス機能とその他の更新

NetBackup 8.1 では、nbdeployutil は、キャパシティライセンスオプションに正確なライセンス機能を提供します。この正確なライセンスモデルは、バックアップ操作中にフロントエンドのデータサイズを収集する独自のメカニズムを利用します。収集されるデータは、キャパシティライセンスレポートで使用されます。

キャパシティライセンスモデルは、バックアップポリシーから重複するバックアップ選択データも検出して、自動的に課金されるデータサイズを調整します。キャパシティライセンスレポートは、NetBackup CloudCatalyst を使用して処理されるフロントエンドのデータ量 (TB) を表示するようになりました。

正確なライセンスについて詳しくは、NetBackup のライセンスモデルと NetBackup 8.1 の『[NetBackup NetBackup 管理者ガイド Vol. II](#)』の「nbdeployutil ユーティリティ」セクションを参照してください。

NetBackup に導入される新しい BigData ポリシー形式

8.1 バージョンから、NetBackup に BigData と呼ばれる新しいポリシー形式が導入されます。BigData ポリシー形式を使用すると、Hadoop などのビッグデータアプリケーションや Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) などのハイパーコンバージドシステムのバックアップを作成できます。

BigData ポリシー形式を使用するには、適切な NetBackup ライセンスが必要です。

- Hadoop ファイルシステムで個別にバックアップを作成してリカバリするには、Application and Database ライセンスパックが必要です。
- Nutanix AHV 仮想マシンのバックアップを作成してリカバリするには、Enterprise Client ライセンスが必要です。

Hadoop や Nutanix AHV のための BigData ポリシー形式の使用について詳しくは、『Hadoop 用 NetBackup 管理者ガイド』と『Acropolis Hypervisor 用 NetBackup 管理者ガイド』をそれぞれ参照してください。次のガイドは、NetBackup 8.1 のリリース後、速やかに入手できるようになります。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

複数の NetBackup 製品、機能、プラットフォームの End-of-Life

2017 年 2 月 1 日に、次の NetBackup 製品はサポート期間が終了しました (EOSL)。

- NetBackup OpsCenter (7.0 から 7.6.1.2)

- NetBackup Enterprise Server (7.0 から 7.6.1.2)
- NetBackup Server (7.0 から 7.6.1.2)
- NetBackup Media Server Encryption Option (7.0 から 7.6.1.2)

また、NetBackup 8.1 では、以下の機能、OS、データベースプラットフォームのサポートが廃止されています。

- NetBackup Plug-in for VMware vCenter
- NetBackup High Availability (HA) Media Server
- Replication Director for EMC VNX
- Microsoft Exchange 2007
- Microsoft SharePoint 2007
- DB2 バージョン 9.1、9.5、9.7、10.1
- OpenVMS: クライアント (IA-64)
- Canonical Ubuntu 12.04 (x86-64)
- Canonical Ubuntu 14.04 (x86-64)
- Canonical Ubuntu 14.10 (x86-64)
- Canonical Ubuntu 15.04 (x86-64)
- CentOS 5 (x86-64)
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5
- Windows Server 2008 (x86-32)
- Windows Vista

- インストール前の環境チェッカー

Veritas NetBackup インストールウィザードにインストール前の環境チェッカーが含まれなくなりました。

- RSH と FTP を使った UNIX/Linux クライアントのリモート (プッシュ) インストール

メモ: 代わりに、SSH または SFTP 方式を使います。管理コンソールからのプッシュインストールでも SSH が使われます。

- ディザスタリカバリにおけるマスタサーバーのリモート (プッシュ) インストール
- RSH、RCP、REMSH を使ったクラスタインストール

メモ: 代わりに、SSH/SCP 方式を使います。

このリストは変更されることがあります。詳細で最新の NetBackup 終了期限 (EOL) 情報は、[SORT](#) に記載されています。

End-of-Life 通知に関する全般的な情報も入手できます。

p.74 の「[NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)」を参照してください。

NetBackup 8.1 の追加サポート

NetBackup 8.1 より、次の製品およびサービスのサポートが開始されます。

- VMware VDDK 6.5.1
- MySQL バージョン 5
- 新しいバックアップまたはリストアホストサポート:
 - Windows 10
 - Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7、6.8、7.2、7.3
 - SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP4、12 SP1

このリストは変更されることがあります。最新の製品およびサービスのためのサポートの追加および変更については、[NetBackup マスター互換性リスト](#)を参照してください。

サポートされている製品およびサービスについて詳しくは、次を参照してください。

p.73 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup BMR 機能が NetBackup 8.1 によるクライアントのリストアでサポートされていない

このリリースでは、NetBackup バージョン 8.1 がインストールされているクライアントのリストアで NetBackup Bare Metal Restore (BMR) 機能がサポートされません。ただし、Bare Metal Restore を使用して、NetBackup バージョン 8.0 以前がインストールされているクライアントをリストアすることは引き続き可能です。8.0 以前のクライアントのリストアでは、8.0 以前のバージョンのクライアントを含む共有リソースツリー (SRT) を使用することをお勧めします。

NetBackup 8.1 での DHCP クライアントサポートの変更

NetBackup 8.1 は、動的アドレス属性が設定されているが、ダイナミック DNS を使用しない DHCP クライアントをサポートしません。たとえば、動的アドレスの設定に bpdynamicclient や bpdhcp などのコマンドを使用するクライアントなどが挙げられます。ダイナミック DNS を使用する NetBackup 8.1 DHCP クライアントは、NetBackup 8.0 以前での DHCP クライアントと同じくサポートされます。

Linux 仮想マシンの SYMCquiesce ユーティリティのサポートは終了しました

Linux 仮想マシンの SYMCquiesce ユーティリティのサポートは、NetBackup の本リリースから廃止されました。新しいオペレーティングシステムでは、同様の機能のネイティブサポートが提供されます。詳細な情報は、オペレーティングシステムベンダーまたは VMware 社にお問い合わせください。

End-of-Life (EOL) 通知について詳しくは、以下を参照してください。

p.74 の「[NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)」を参照してください。

いくつかのシャットダウンコマンドが将来のリリースで廃止される予定

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- bp.kill_all
- bpdwn
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

csconfig コマンドのローカリゼーションサポートの追加

csconfig コマンドのエラーメッセージとヘルプコンテンツは、次の言語のローカリゼーションをサポートしています。

- 中国語
- フランス語
- 日本語

NetBackup マスターサーバーの新しい最小システム要件

NetBackup の本リリースから、NetBackup マスターサーバーには 4 つのコアと 16 GB の RAM が必要になりました。この要件は、OpsCenter サーバー、メディアサーバー、またはクライアントには適用されません。

最小システム要件について詳しくは、バージョン 8.1 用の『[NetBackup インストールガイド](#)』を参照してください。

MSDP のフィンガープリントアルゴリズムの変更に関するアップグレードの考慮事項

NetBackup 8.1 での MSDP のフィンガープリントアルゴリズムの変更により、アップグレードパスの計画時に MSDP 環境を検討する必要があります。フィンガープリントアルゴリズムが刷新されるため、NetBackup 8.0 以前のホストは NetBackup 8.1 の MSDP にアクセスできません。NetBackup ジョブの失敗は、この条件を計画しなかったことによるものである可能性があります。

詳しくは、NetBackup 8.1 の『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (_) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

SCCM と Chef の配備ツールとマニュアルが利用可能になりました

NetBackup 8.1 リリースでは、NetBackup の配備に System Center Configuration Manager (SCCM) と Chef の使用がサポートされるようになりました。ベリタスでは、さまざまな配備パスをテストし、検証を行っています。SCCM と Chef の両方のマニュアルとテンプレートが入手できます。SCCM と Chef のサポートおよび使用について詳しくは、[SORT](#) を参照してください。

メディアサーバーと SSO デバイスの構成手順の変更

次の項目では、メディアサーバーの追加手順と Shared Storage Option (SSO) デバイスの構成手順の変更について説明します。

- NetBackup 管理コンソールで既存の環境にメディアサーバーを追加する場合は、すべてのサーバーでサービスを再起動せずに、新しいメディアサーバーをマスターサーバーのメディアサーバーリストに追加します。詳しくは、『Veritas NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「メディアサーバーの追加」を参照してください。

- 次の処理を実行するたびに、テープドライブを共有するすべてのサーバーで NetBackup Device Manager (ltid) を再起動する必要があります。
 - 新しく追加されたメディアサーバーへの共有ドライブの構成。
 - 共有ドライブのパスの追加または削除。

詳しくは、『Veritas NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』の「NetBackup での Shared Storage Option デバイスの構成」を参照してください。

インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1 にアップグレードする

メモ: NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 8.1 をインストールするかまたはそのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup マスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要があります。

ベリタスはリリース間にもクラウド構成ファイルへの新しいクラウドサポートを継続的に追加します。実際のところ、新しいクラウドサポートが NetBackup 8.1 の最終ビルド以降に追加されています。NetBackup 8.0 のインストール以降にクラウド構成ファイルを更新した場合、いくつかの最近追加されたクラウドプロバイダと拡張機能は NetBackup 8.1 ビルドのクラウド構成ファイルには含まれていない可能性があるため、クラウド構成ファイルを更新する必要があります。NetBackup 8.1 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

NetBackup 8.1 へのアップグレードの直後に、最新のクラウドプロバイダーの追加と拡張機能を利用するには、最新のクラウド構成パッケージに更新します。詳しくは、次の TechNote を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125094

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000126560

NetBackup 8.0 (クラウド構成パッケージを使用して配備された) で使用可能であったものの、NetBackup 8.1 に付属のクラウド構成ファイルでは使用できないクラウドプロバイダと関連する拡張機能の詳細については、以下の TechNote を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127978

Amazon クラウドストレージサーバーのオブジェクトサイズの変更

NetBackup 8.1 以降では、Amazon (S3) と Amazon GovCloud ストレージサーバーのオブジェクトサイズが変更されています。この変更は、これらのクラウドストレージサーバーの読み込みおよび書き込みバッファサイズの有効範囲に影響します。

マスターサーバーで NetBackup 管理コンソールを使用して、NetBackup 8.1 より前のサーバーの読み込みおよび書き込みバッファサイズの値を更新する必要があります。メディアサーバーに関連付けられている各クラウドストレージサーバーのこれらの設定を更新します。

設定可能な範囲については、『[NetBackup クラウド管理者ガイド](#)』で `READ_BUFFER_SIZE` と `WRITE_BUFFER_SIZE` に関する情報を参照してください。読み込みまたは書き込みバッファサイズを更新する方法については、『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

クラウド関連の追加の拡張機能

次のクラウド関連拡張機能が、NetBackup 8.1 に含まれています。

- 選択した領域を指定した NetBackup クラウドストレージの構成
クラウドストレージサーバーを構成するときに、特定の領域を選択できるようになりました。NetBackup クラウド操作には選択した領域のみが使用されます。この機能拡張は、`csconfig CLI` から使用できます。

詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。

- プロキシサーバーの拡張機能

このリリースでは、プロキシサーバーの構成に次の拡張機能が使用できます。

- 「基本」と「NTLM」の認証形式がサポートされます。
- 認証は、S3、Azure、SWIFT API の各タイプのクラウドコネクタに対してサポートされます。
- プロキシの HTTP トンネリングが構成可能です。
- IP アドレスまたはホスト名を使用してプロキシサーバーを指定できます。
- NetBackup と CAP (C2S アクセスポータル) との間の通信にプロキシサーバーを使用します。

この拡張機能は、[クラウドストレージ]設定ウィザードおよび `csconfig` コマンドで使用できます。

詳細については、『[NetBackup クラウド管理者ガイド](#)』と『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。

- Amazon Virtual Private Cloud のサポート。
NetBackup を使用して、Amazon 仮想プライベートクラウド (VPC) 環境に新しいクラウドストレージを追加できます。

詳しくは、『[NetBackup Cloud 管理者ガイド](#)』を参照してください。

- 新しいクラウドベンダーサポート

以下のクラウドベンダーのサポートが追加されました。

- CMCC Cloud Storage v5.x(S3)

- OpenStack Swift Identity v3 の認証バージョン
- BM SoftLayer
- Fujitsu Cloud Service K5
- Microsoft Azure Government

詳しくは、『[NetBackup Cloud 管理者ガイド](#)』を参照してください。

VMware バックアップからディスクを除外するための新しいオプション

このリリースでは、VMware バックアップからディスクを除外するための新しいオプションが提供されています。これらの新しいオプションは、[バックアップポリシーの構成ウィザード (Backup Policy Configuration Wizard)]の[バックアップから仮想ディスクを除外 (Exclude Virtual Disks from Backup)]パネルおよび[ディスクを除外 (Exclude Disks)]タブの[ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスにあります。

既存の「ディスクを除外」オプションは、[VMware - 高度な属性 (VMware - Advanced Attributes)]ダイアログボックスから、新しいダイアログボックスとウィザードパネルに移動しました。

詳しくは、次の URL から入手可能な 8.1 バージョンの『[NetBackup for VMware 管理者ガイド](#)』の「[ディスクを除外]タブ」のトピックを参照してください。

または、NetBackup `bpplinf` コマンドを使用してバックアップポリシーの属性を構成することもできます。

新しいディスク除外オプションの 1 つは、VMware カスタム属性によって除外するためのオプションです。このディスクの除外方式に役立つように、VMware vSphere Web Client の NetBackup プラグインには仮想ディスク除外ウィザードが含まれています。このウィザードを使用して、1 つまたは複数の仮想マシンにカスタム属性を追加できます。

NetBackup はその後、その属性で識別される仮想ディスクをバックアップから除外できます。詳しくは、次の URL で利用可能な『[NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド](#)』を参照してください。

VMware の[仮想マシンのディスクのリストア (Restore Virtual Machine Disks)]ウィザード

新しい[仮想マシンのディスクのリストア (Restore Virtual Machine Disks)]ウィザードでは、1 つ以上の個々の仮想マシンディスクをリストアできます。以前は、個々の仮想マシンディスクのリストアでは NetBackup コマンドに使用することが必要でした。詳しくは、NetBackup 8.1 の『[NetBackup for VMware 管理者ガイド](#)』の「VMware 仮想マシンディスクのリストアについて」を参照してください。

VMware での ASCII 以外の文字のサポート

NetBackup が仮想マシン用に ASCII 以外の文字をサポートするようになりました。ただし、VM のバックアップおよびリストアに使う名前には一定の制限があります。要件と制限の情報については、NetBackup 8.1 の『[NetBackup for VMware 管理者ガイド](#)』の「NetBackup for VMware: 注意事項および制限事項」を参照してください。

クラスタ化されたファイルシステム、データベースクラスタ、分散データベースアプリケーションの新しい要件

クラスタ化されているか、データベースアプリケーションのためのファイルシステムまたはデータベースの場合、NetBackup 8.1 では、[ホスト管理 (Host Management)] の自動検出されたマッピングを確認する必要があります。NetBackup for SQL Server の場合、この要件は、可用性グループ (AG) にも適用されます。[承認待ちのマッピング (Mappings for Approval)] タブで、環境で NetBackup が検出した有効な各マッピングを承認します。この設定によって、クラスタのホストが安全なホストとして認識され、マスターサーバーと通信できることが保証されます。クラスタの 1 つのノードにのみ NetBackup クライアントをインストールする場合、この設定は必要ありません。マスターサーバーの [ホスト管理 (Host Management)] プロパティでこの設定を実行します。詳しくは、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』を参照してください。

Exchange、SharePoint、SQL Server エージェントでは、マスターサーバーの [分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)] ホストプロパティにホスト情報を設定する必要がある場合があります。

- マスターサーバーを NetBackup 8.1 にアップグレードする場合に、Exchange Server、SharePoint Server、SQL Server などの複雑な作業負荷のバックアップとリストアに関する以前の設定に影響する可能性のあるセキュリティ要件が導入されました。たとえば、複雑な作業負荷としては次のものが挙げられます。
 - Exchange DAG
 - Exchange クラスタ
 - SharePoint Server
 - クラスタ化されたバックエンド SQL Server 実装の SharePoint Server
 - SQL Server クラスタ
 - SQL Server 可用性グループ (AG)
 - フェールオーバークラスタインスタンス (FCI) 実装の SQL Server AG

最初に、現在の設定でデータベース作業負荷のバックアップ作成を試すことを推奨します。バックアップが成功しない場合、マスターサーバーで [分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)] ホストプロパティを設定します。リストアが成功しない場合も、[分散アプリケーションリストアマッピング

(Distributed Application Restore Mapping)]を設定するとこれらの問題を解決できる場合があります。

SQL Server の可用性が高い環境で[分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)]の設定を選択した場合、一定の以前の設定手順が不要になりました。この場合、SQL Server エージェントには、クラスタまたは AG ノードの名前を含む第 2 のポリシーが不要になりました。SQL Server クラスタまたは AG については、クラスタまたは AG ノードのリダイレクトリストアの権限を設定する必要もありません。

- NetBackup 8.1 の新規インストールの場合、環境のエージェントについてはエージェントの管理者ガイドの説明に従ってください。分散アプリケーションのリストアのマッピングを設定する必要があります。また、環境内のホストの自動検出マッピングも確認する必要があります。

[分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)]ホストプロパティの構成

NetBackup 8.1 は、特定の SQL Server 環境では、マスターサーバーで[分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)]ホストプロパティにホスト情報を構成する必要があります。この構成は SQL Server クラスタまたは SQL Server 可用性グループ (AG) のリストアに必要です。VMware のバックアップについては、[VM ホスト名 (VM hostname)]ではなく[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)]を使用する場合、[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)]をその VM のホスト名にマッピングする必要があります。

SQL Server クラスタと SQL Server AG のポリシーとその他の設定の変更

レガシーの SQL Server のバックアップ (バッチファイル使用) について、NetBackup では、クラスタまたは AG ノードの名前を含む第 2 のポリシーが不要になりました。リストアの実行に、リダイレクトリストアの権限 (altnames) を設定する必要もなくなりました。[分散アプリケーションリストアマッピング (Distributed Application Restore Mapping)]ホストプロパティのマッピングが、これらの設定手順を置き換えます。

以前のバージョンの NetBackup からアップグレードする場合、SQL Server の正常なバックアップ作成とリストアのため、第 2 の「ノード名」ポリシーと altnames 権限の両方を引き続き使用できます。ただし、特定のホストにのみリストアを許可することを推奨します。NetBackup 8.1 では、要求するクライアントがマスターサーバーに認識されている場合のみ、No.Restrictions ファイルがそのクライアントにリダイレクトリストアの実行を許可します。

NetBackup データベースのスクリプトベースポリシーで使用する承認を受けた場所の登録

NetBackup は、バックアップ中にスクリプトがデフォルトのスクリプト格納場所または承認を受けた場所にあるか確認します。スクリプトの承認を受けたデフォルトの格納場所は、UNIX の場合は `usr/openv/netbackup/ext/db_ext`、Windows の場合は `install_path¥netbackup¥dbext` です。スクリプトがデフォルトのスクリプト格納場所または承認を受けた場所でない場合、ポリシーのジョブは失敗します。スクリプトをデフォルトのスクリプト格納場所または追加の承認を受けた場所に移動すれば、NetBackup はスクリプトを認識します。すべてのスクリプトは、ローカルに格納してローカルで実行する必要があります。

次のクライアントエージェントが影響を受けます。

- DB2
- MSSQL サーバー
- Sybase
- SAP
- Oracle
- Informix-On-BAR
- DataStore
- DataTool の SQL-BackTrack

マスターおよびメディアサーバーの `NetBackup¥bin¥goodies` ディレクトリには、`db_script_discovery` というツールが含まれています。このツールを使うと、`bppllist` コマンドを使ってポリシーのリストを NetBackup 環境に問い合わせることができます。XBSA ポリシーを使ってクライアント上のスクリプトを実行するポリシーのリストがフィルタ処理されます。次に、クライアント、ポリシー名、ポリシータイプ、スクリプトパス、およびポリシーが有効かどうかが表示されます。

承認を受けた場所とスクリプトについて詳しくは、ナレッジベースの記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000126002>

承認を受けた場所とスクリプトの登録について詳しくは、NetBackup 8.1 のデータベースエージェントのマニュアルを参照してください。

DB2 OPTIONS コマンドの更新

DB2 OPTIONS コマンドが更新され、`DB2_CLIENT=<client_name>` オプションと `DB2_SERVER=<server>` オプションが含まれるようになりました。この更新により、ユーザーがコマンドライン内でこれらのオプションを指定できるようになりました。DB2 OPTIONS コ

マンドについて詳しくは、NetBackup 8.1 の『[NetBackup for DB2 管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 8.1 の最新の状態コード

3つの状態コードが最近追加されました。ただし、『[NetBackup 状態コードリファレンスガイド](#)』や NetBackup 8.1 のトラブルシュータでは、これらの状態コードについて説明していません。

- 状態コード 5976 (パスフレーズは 8 文字以上、20 文字以下の必要があります) について詳しくは、次の記事を参照してください。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127922
- 状態コード 5977 (既存のパスフレーズと新しいパスフレーズは異なっている必要があります) について詳しくは、次の記事を参照してください。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127923
- 状態コード 24630 の情報については、以下の記事を参照してください(「NetBackup 管理コンソールはホストとのセキュア接続を確立できませんでした」)。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127910

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.1 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラスタの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 重複排除に関する注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 8.1 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の

注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

p.76 の「[NetBackup の関連マニュアルについて](#)」を参照してください。

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 8.1 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

PBX のバージョンが NetBackup のバージョンと互換性がない場合にサービスが開始できないかまたはバックアップが失敗する

NetBackup のアップグレード時に、Veritas PBX (Private Branch Exchange) もアップグレードされます。ただし、以下に示すいくつかの理由により、PBX バージョンおよび NetBackup バージョンは NetBackup のアップグレード後に互換性がなくなる可能性があります。

- PBX のアップグレードが正常に実行されていません。
- いずれかのホストの NetBackup ソフトウェアがダウングレードされていますが、PBX はダウングレードされていません。
- バックアップ環境が、NetBackup 以外のベリタス製品で構成されています。他の製品がアップグレードされ、それにより PBX のがアップグレードされることになりました。

メモ: NetBackup のバージョンが 8.1 の場合、PBX のバージョンは v1.7.4.0 以降でなければなりません。

現在の PBX のバージョンを確認するには、次のコマンドを実行します。

- Windows の場合:

```
install_path¥VxPBX¥bin¥pbxcfg -v
```

- UNIX の場合:
/opt/VRTSpx/bin/pbxcfg -v

この問題を解決するには:

- ベリタステクニカルサポートチームに問い合わせて、既存の NetBackup バージョンと互換性がある、インストール済み PBX のバージョンを確認してください。

インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェースウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないことを Veritas が推奨します。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。『NetBackup インストールガイド』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが中止されます。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての swremove と swinstall コマンドに追加されます。

AIX 7.1 で起きる可能性がある Java エラー

AIX 7.1 で、インストールプログラムに次のメッセージが表示される場合があります。

```
WARNING: Installation of Java LiveUpdate agent failed.
Refer to file /tmp/JLU-Log/JavaLiveUpdate-Install.log on bmraix57 for more information.
```

このメッセージが表示された場合は、次の Java コマンドを実行して、エラー出力を確認してください。

```
# /usr/opensv/java/jre/bin/java
Error: Port Library failed to initialize: -125
Error: Could not create the Java Virtual Machine.
Error: A fatal exception has occurred. Program will exit.
```

このエラー出力が生成された場合は、次の IBM のサポート記事を参照して問題を解決してください。

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg11V12285>

メモ: 他のエラーが原因で警告メッセージが表示されている可能性があります。Java コマンドの出力内容によって、IBM の修正プログラムによって問題が解決するかどうかを判断できます。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.1 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NBAC が有効な 8.0 以前のマスターサーバーとの接続が失敗する場合がある

NetBackup 8.1 の設定で、8.1 インストールにパッケージされている 8.0 以前の NetBackup 管理コンソールを使用して、NBAC が有効な 8.0 以前のマスターサーバーと接続する場合、NetBackup Service Layer (NBSL) との通信を確立できません。Authentication Service (AT) データディレクトリでの不一致が原因で安全な接続に必要なクレデンシアルが見つからないため、NetBackup のログインが失敗します。

次の警告メッセージが表示されます。

NetBackup Service Layer (NBSL) への接続を確立できませんでした。NBSL サービスを動作させるのに必要な操作を実行できない可能性があります。NBSL サービスを再起動します。

この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- クレデンシアルを適切なフォルダに作成する -Dvrtsat.donot.suffix.username 設定オプションを無効にして、AT データディレクトリでの不一致を解消します。
 - すべての -Dvrtsat.donot.suffix.username=1 を
-Dvrtsat.donot.suffix.username=0 で置き換えます。

次のファイルでは、`-Dvrtsat.donot.suffix.username` オプションを使用できません。

Windows の場合: `C:\Program Files\Veritas\Java\jnbjava.bat`

UNIX の場合: `/usr/opensv/java/jnbSA`

- 現在インストールされているバージョンの NetBackup 管理コンソールを使用して、関連付けられているマスターサーバーまたはメディアサーバーに接続します。

ホスト ID からホスト名へのマッピングで大文字と小文字が区別されない

ホスト ID からホスト名へのマッピングでは大文字と小文字は区別されず、マッピングを追加するときに大文字を使用しても、常に小文字で表示されます。

マッピングは、NetBackup 管理コンソールの [NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ホストプロパティ (Host Properties)]、[クライアント (Clients)]、[クライアント (Clients)] の順に選択した [クライアント (Clients)] タブにある [マッピング済みのホスト名/IP アドレス (Mapped Host Names / IP Addresses)] 列に表示されます。
`nbhostmgmt` コマンドを使用して一覧表示することもできます。

2.6 より後のカーネルバージョンで実行している SUSE 11 で起きる問題

ライブ参照とバックアップの問題は 2.6 より後のカーネルバージョンの SUSE 11 オペレーティングシステムで起きる可能性があります。この問題の原因として、NetBackup 8.1 の `nbfirescan` プロセスが 2.6 より後のカーネルバージョンをサポートしないことが考えられます。

この問題を回避するには、カーネルバージョンを 2.6 に戻してからスナップショットを作成します。

IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項

NetBackup の次の 2 つの制限事項は、IPv6 アドレスがクライアント名またはイメージ名として使われている場合に当てはまる場合があります。

- ポリシーでクライアント名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタンプリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。この場合は、バックアップに失敗する可能性があります。IPv6 アドレスの代わりにホスト名を指定してください。イメージ名は NetBackup で自動的に作成され、クライアント名とタイムスタンプの組み合わせで構成されます。クライアント名がポリシー内で IPv6 アドレスとして構成されていると、IPv6 アドレスが含まれているイメージ名が (イメージカタログに) 生成されます。この場合は、バックアップに失敗します。
- カタログでイメージ名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタンプリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 8.1 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.73 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

- NetBackup 管理コンソール
- リモート管理コンソール
- デバイス管理用の文字ベースのメニューインターフェイス
- コマンドライン

NetBackup 管理コンソールを実行するためのメモリ要件

最低 1 GB の物理メモリ (256 MB がアプリケーションで利用可能) があるコンピュータで、コンソール (jnbSA、jbpSA またはリモート管理コンソール) を実行することを推奨します。

複数のバージョンの NetBackup 管理インターフェース

インストールパッケージには、サポート対象バージョンの NetBackup 用の管理インターフェースが含まれています。このリリースには、7.7 以降のバージョンが含まれています。NetBackup 7.7 より前のサーバーまたはクライアントの操作を管理または実行する必要がある場合は、NetBackup 8.0 のリモート管理コンソールをインストールすることもできます。NetBackup 管理インターフェースのサポート対象バージョンについて詳しくは、<https://sort.veritas.com/eosl> を参照してください。

リモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、「操作がタイムアウトしました」というメッセージが表示される

NetBackup のリモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、次の警告メッセージが表示されます。

```
The operation timed out. The operation has exceeded the time out limit, though service or daemon may still be processing the request.
```

この警告は、NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT のデフォルト値が必要な値を下回っているために表示されます。ただし、[OK]をクリックしてもポリシーにはまだアクセスできません。

回避策: NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT 値を変更します。

- 変更前:

```
SET NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT=60
```

- 変更後:

```
SET NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT=300
```

変更が完了したら、NetBackup のリモート管理コンソールを再起動します。ポリシーが最大 5 分 (300 秒) 以内にロードされます。

NetBackup のリモート管理コンソールの構成オプションの設定について詳しくは、NetBackup 8.1 の『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブラリ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: runInstaller を実行する前に `export LD_BIND_NOW=1` コマンドを実行します。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する

次の問題は、ログオン ダイアログで指定されているホスト上の 1 つ以上の NetBackup サービスまたはデーモンが実行されていない場合に発生します。

- 機能の低下 (たとえば、バックアップ、アーカイブ、リストアのコンプォネントのみが利用可能)
- NetBackup 管理コンソールの初期化中に[接続できません (Cannot Connect)]エラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合がある

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項

NetBackup アクセラレータは、完全バックアップを高速化します。高速化は、クライアント上の変更検出技術によって実現しています。クライアントは、この変更検出技術とクライアントの最新のファイルシステムを使って、前回のバックアップ以降発生した変更を特定します。このトピックでは、NetBackup アクセラレータ バージョン 8.1 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントサーバーの Accelerator バージョンの必要条件

NetBackup アクセラレータは、マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントサーバーが NetBackup 7.5 以上であることを必要とします。NetBackup アプライアンスメディアサーバーはアクセラレータサポートのために NetBackup アプライアンス 2.5 以上を必要とします。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 8.1 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup 8.0 以前のクライアントがある AIX および HP-UX プラットフォーム上で NetBackup 8.1 を BMR ブートサーバーとして使用して共有リソースツリー (SRT) を作成すると失敗する場合がある

NetBackup 8.0 以前のクライアントがある AIX および HP-UX プラットフォーム上で NetBackup 8.1 を BMR ブートサーバーとして使用して共有リソースツリー (SRT) を作成しようとすると、SRT の作成操作は失敗してエラーメッセージが出されます。

回避方法: AIX および HP-UX プラットフォーム上の BMR ブートサーバーは、NetBackup 8.1 にアップグレードしないことをお勧めします。

ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備している場合、SRT の作成は失敗することがある

ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備している場合に、下位の OS の更新を含む Bare Metal Restore (BMR) 共有リソースツリー (SRT) の作成が、カーネルパッチ ID の検査が原因で失敗することがあります。この問題は、Solaris 10 Update 11 に以前の Solaris 10 の更新時の ID より小さい値のカーネルパッチ ID があるために起きます。

回避策: Solaris 10 update 11 BMR ブートサーバーのカーネルパッチを更新します。Oracle Solaris からの提供されたカーネルのバグ修正パッチを適用することによって、カーネルを更新できます。Solaris 10 update 11 のカーネルのバグ修正パッチは、パッチ数を他のパッチより大きい数値に修正することでこの問題を修正しています。

システムブート中や BMR の初回ブート中に Solaris 11 の多くのサービスが警告メッセージを表示する

Solaris 11 以降で初回ブート時に BMR をリストアすると、複数のサービスに関するエラーメッセージが表示されます。

システムブート時と BMR の初回ブート時に、多くのサービス (sendmail など) が次の警告メッセージを出力します。

```
sendmail/filesys_update failed
```

これらのメッセージは、システムにオペレーティングシステムを標準インストールするときにも表示されますが、無視できます。

BMR の初回ブート時にコンソールに表示される他のメッセージは、`zpool` と Solaris ゾーンの再設定に関連します。これらはすべて無害なメッセージで、システムのリストアや、`zpool` と `zones` を正しい状態にするのには影響しません。

これらは、SMF サービスのメッセージです。システムリカバリには影響しません。

BMR のリストア後の初回ブート時に、Solaris 11 以降の Solaris ゾーンリカバリを再構成するまでに時間がかかる

Bare Metal Restore (BMR) リストア操作後の初回ブート時に、BMR は `detach-attach` コマンドを使ってゾーンを再設定します。多数のゾーンを設定する必要がある場合は、これらのコマンドの実行に時間がかかることがあります。BMR `first boot` コマンドの完了後に、`zpool`、`zones`、`ZFS` の設定が新しい設定で安定するまでに時間がかかることがあります。

システムが正しい設定状態になるまで、初回ブート後に約 10 分間 (ゾーン数によってはさらに長く) 待機します。完全にリカバリするまでシステムを再起動したり、ゾーンにログインしないでください。

テキストインストーラのパッケージがカスタマイズされた AI ISO 内に存在しない場合、Solaris BMR のリストア操作に失敗する

テキストインストーラパッケージが配布コンストラクタを使って作成されたカスタマイズ済み AI (Automated Installer) ISO 内に存在しない場合は、Solaris Bare Metal Restore (BMR) のリストア操作に失敗します。

共有リソースツリー (SRT) の作成に配布コンストラクタを使って作成されたカスタマイズ済み AI ISO を使う場合は、テキストインストーラパッケージを AI のマニフェストファイルから削除しないでください。

Solaris x86 の場合は、BMR リストアがこのパッケージのファイルを使うのでテキストインストーラパッケージが必須です。

複数のデバイスに基づく OS 構成では /boot パーティションが独立したパーティション上になければならない

クライアントがマルチデバイスの下でルート (/) として構成されている場合、正常な BMR リストアのためには、`/boot` パーティションが別のパーティション上にある必要があります。つまり、/ と `/boot` が同じパーティションにある場合、複数デバイススペースの OS 構成に対してサポートされません。

ZFS ストレージプールを使ったクライアントのリストア後、初回のブート中に、複数のエラーメッセージが表示されることがある

ZFS ストレージプールを持つクライアントのリストア後の初回のブートの間に、複数のエラーメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。

```
SUNW-MSG-ID: ZFS-8000-D3, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Major
EVENT-TIME: Mon May 23 13:10:09 CDT 2011
PLATFORM: SUNW,Sun-Fire-V215, CSN: -, HOSTNAME: bmrsole101.vxindia.veritas.com
SOURCE: zfs-diagnosis, REV: 1.0
EVENT-ID: c257eb38-495e-cdb6-9a52-a4d9c2ae38be
DESC: A ZFS device failed. Refer to http://sun.com/msg/ZFS-8000-D3 for more information.
AUTO-RESPONSE: No automated response will occur.
IMPACT: Fault tolerance of the pool may be compromised.
REC-ACTION: Run 'zpool status -x' and replace the bad device.
```

コンピュータの各ディスクで、エラーメッセージが発生することがあります。ただし、ログオンして `zpool status -x` コマンドを実行する、次のメッセージが表示されます。

```
all pools are healthy
```

これは、初回ブートシーケンスの間に行われる ZFS インポート操作のためです。Bare Metal Restore (BMR) は BMR リストア環境内のストレージプールと内容をリストアし、後で初回ブート中にクライアント環境にインポートします。これにより、初回ブート操作の間にエラーメッセージまたは警告メッセージが表示される場合があります。

これらのメッセージは初回ブート操作の間にのみ発生し、安全に無視できます。

BMR が ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しないことがある

Dissimilar Disk Restore (DDR) 中に少数のディスクに ZFS ストレージプールを作成するよう選択した場合、Bare Metal Restore (BMR) 残りのディスクの ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しません。そのため、それらのディスクを使って他のストレージプールを作成しようとする、ディスクが ZFS ストレージプールで使用中であることを示すエラーメッセージが表示されることがあります。

この問題を回避するには、`-f` オプションを使ってそれらのディスクに新しいストレージプールを作成します。

自動イメージレプリケーションおよび BMR を使って保護する場合のクライアントの短縮名の指定

自動イメージレプリケーションおよび Bare Metal Restore (BMR) を使って保護したいコンピュータに NetBackup クライアントパッケージをインストールする場合には、クライアントの短縮名を指定する必要があります。また、プライマリドメインに作成したバックアップボ

リシーにも、クライアントの短縮名を指定する必要があります。このポリシーはすべてのクライアントのローカルドライブをバックアップし、BMR が必要とするクライアント構成を収集します。二次または三次ドメインの DNS は、ディザスタリカバリサイトでのクライアントの BMR リカバリ中に完全修飾名を解決することができません。

クライアントリストアの成功後もリストアタスクがディザスタリカバリドメインに完了状態で保持されることがある

プライマリとディザスタリカバリのドメイン名が異なる Dissimilar Domain Restore を実行すると、リストアタスクはクライアントのリストアの成功後も、ディザスタリカバリドメインに完了状態で保持されます。Bare Metal Restore (BMR) リストアはディザスタリカバリドメインで正常に実行されますが、リストアタスクの更新のみが失敗します。

この更新は、クライアントに無効なネットワーク構成がある場合に失敗します。このリストアはディザスタリカバリドメインの DNS に関連する構成ファイルを変更しないため、これは予期される動作です。

次のネットワーク構成ファイルを手動で変更し、ディザスタリカバリドメイン内のクライアントをバックアップおよびリストアする必要があります。

- Solaris の場合:

- /etc/hosts
- /etc/resolv.conf
- /etc/nodename
- /etc/bge0.hostname

- AIX の場合:

smitty を実行して、ネットワーク構成を変更します。

- HP-UX の場合:

HP のシステム管理ホームページ (SMH) を使って、ネットワーク構成を修正します。

- Linux の場合:

- /etc/hosts
- /etc/resolv.conf
- /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth*

- Windows の場合:

次の URL を参照して、Windows のドメイン名を変更します。

- <http://windows.microsoft.com/en-US/windows7/Connect-your-computer-to-a-domain>
- <http://support.microsoft.com/kb/295017>

BMR の IPv6 サポート

Bare Metal Restore (BMR) は、IPv4 のみのネットワーク、IPv6 のみのネットワーク、または IPv4-IPv6 デュアルスタックネットワークを介して通信できるクライアントを保護します。多くの NW ブートプロトコルは IPv6 チャンネルではサポートされていないため、BMR のリカバリは IPv4 ネットワークでのみサポートされます。さらに、bmrsetupmaster コマンドで BMR データベースを構成するときは、BMR マスターサーバー IPv4 アドレスを有効にして、マスターサーバーのホスト名で解決できるようにする必要があります。bmrsetupmaster が正常に実行された後は、IPv6 アドレスを使う場合にのみ IPv4 アドレスを停止できます。

BMR のリストアの間、マスターサーバーとメディアサーバーは有効になっている IPv4 アドレスを必要とします。

例

bmrsetupmaster は、BMR マスターの IPv4 アドレスを解決する際、BMR データベースへのレコード作成中に失敗することがあります。BMR データベースの作成に失敗するため、BMR マスターは機能しません。

この問題を解決するには、bmrsetupmaster コマンドを実行する前に、マスターサーバーの IPv4 ベースの IP が有効になっていて、NetBackup マスターサーバーの名前で解決できることを確認してください。

BMR のバックアップは IPv6 ネットワークチャンネルでサポートされますが、BMR のリストアは IPv4 チャンネルでのみ正常に実行されることに注意してください。

リストア後に HP-UX の自動ブートに失敗することがある

Bare Metal Restore (BMR) のリストア後、クライアントコンピュータの初回のブート時にオペレーティングシステムの自動ブートに失敗する場合があります。その後 HP BIOS はブートドライブを識別できなくなります。

この問題を解決するには、[HP BIOS]>[EFI]シェルを使い、デバイスマッピングテーブルを確認してブートに使うことができるハードディスクドライブ (fs0: など) を選択します。

オペレーティングシステムを手動でブートするために、ディレクトリを ¥EFI¥HPUX¥ に変更して (cd)、HP-UX を実行します。

メモ: EFI シェルを処理する方法については、HP EFI のマニュアルを参照してください。

クライアントコンピュータが起動したら、コンピュータに root としてログオンし、次のコマンドを実行して自動ブートを有効にします。

```
setboot -p <hardware_path_of_boot_harddrive>
```

Solaris クライアントのリストア準備が機能しないことがある

Bare Metal Restore (BMR) ブートサーバーがクライアントコンピュータの IPv4 アドレスの解決に失敗したため、Solaris クライアントコンピュータの BMR のリストア準備が正常に実行されない場合があります。

この問題を回避するには、次を実行します。

- IPv4 アドレスとして、`client_host_name` マッピングエントリが `/etc/hosts` に最初に存在し、その後に IPv6 マッピングエントリがあることを確認してください。
Solaris BMR ブートサーバーでは、`/etc/hosts` ディレクトリに最初に IPv6 アドレス `client_host_name` エントリが含まれていると、BMR ブートサーバーはクライアント IPv4 アドレスの識別に失敗します。
- [リストア準備 (Prepare To Restore)]を再度実行します。

NetBackup クラウドの操作上の注意事項

NetBackup Cloud Storage では、クラウドの STaaS (Storage as a Service) ベンダーからデータをバックアップ、リストアできます。NetBackup Cloud Storage は Veritas OpenStorage と統合されています。この項では、NetBackup 8.1 の NetBackup クラウドに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Amazon クラウドプロバイダ用の nbcloudutil ユーティリティを使用してバケットを作成するときに不正なエラーメッセージが表示される

`nbcloudutil` を使用してバケットを作成するときに、バケット名の最後の文字として無効な文字を入力すると、不正なエラーメッセージが表示されます。無効な文字がバケット名の最後の文字である場合のみ、この不正なエラーメッセージが表示されます。他の文字が無効な場合は表示されません。たとえば、バケット名を `amzbucket-` として入力すると、次の不正なエラーメッセージが表示されます。

ホスト名を解決できませんでした (Couldn't resolve host name)

IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 が実行されているホストで Rackspace プラグインが使われている場合、ネットワーク接続問題が発生することがある

Rackspace のプラグインが IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 を実行するホストで使われているとき、NetBackup にネットワーク接続の問題が発生する場合があります。Rackspace のプラグインを使う Windows Server 2008 R2 のホストでは IPv6 を無効にすることをベリタスが推奨します。

NetBackup クラスタの操作上の注意事項

クラスタはアプリケーションおよびデータの高可用性を実現します。クラスタでは、2 台以上のサーバー（ノード）がネットワークでリンクされます。これらのサーバーではクラスタソフトウェアが実行され、共有ディスクに各ノードがアクセスできます。この項では、NetBackup 8.1 のクラスタ技術に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Solaris クラスタ設定でリソースに不具合があった後、NetBackup サービスが同じアクティブノードで起動する場合がある

Solaris クラスタ設定の NetBackup のクラスタ化されたマスターサーバーの場合、NetBackup サービスが、不具合後に別のノードにフェールオーバーせず、同じアクティブクラスタノードで再起動する場合があります。クラスタのログに次のログメッセージが記載されます。

```
SC[,VRTS.scnb,scnb-harg,scnb-hars,gethostnames]: [ID 758691  
daemon.warning] Current setting of Retry_interval= 300, might prevent  
failover on repeated probe failures. It is recommended that  
Retry_interval be greater than or equal to [(Thorough_probe_interval  
+ Probe_timeout) * 2 * Retry_count]. Current values are  
(Thorough_probe_interval = 60,Retry_count = 2,Probe_timeout = 30).
```

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 1 次のコマンドを使用して、リソース `scnb_hars` の `Retry_interval` オプションを 360 より大きく設定します。

```
#/usr/cluster/bin/clrs set -y Retry_interval=400 scnb-hars
```

- 2 次のコマンドを使用して、`Retry_interval` オプションの更新された値を確認します。

```
# /usr/cluster/bin/clrs show -y Retry_interval scnb-hars
```

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup には、Oracle、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server といったさまざまなデータベースやアプリケーション技術を保護するためのいくつかの方法が用意されています。このトピックでは、NetBackup 8.1 のデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for Exchange の操作上の注意事項

NetBackup for Exchange Server では NetBackup の機能が拡張され、Exchange データベースのオンラインのバックアップとリストアが追加されました。このトピックでは、NetBackup 8.1 の NetBackup for Exchange に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

DAG のノードからリストアを開始した場合に DAG バックアップの状態が空になることがある

データベース可用性グループ (DAG) バックアップのデータベースや個別項目をリストアする場合は、バックアップ、アーカイブ、リストア (BAR) インターフェースでリストアの状態が空になることがあります。DAG のノードからリストアを開始した場合、状態は空になります。アクティビティの状態を適切に表示するには、アクティブ DAG ノードまたは NetBackup サーバーからリストアを開始してください。

DAG 環境でのユーザー主導バックアップを現在アクティブになっていない DAG のノードから開始すると失敗する

データベース可用性グループ (DAG) 環境で仮想 DAG 名が現在アクティブではない DAG のノードからユーザー主導バックアップを開始すると失敗します。

回避策: アクティブ DAG ノードからユーザーバックアップを開始するか、または NetBackup マスターからバックアップを手動で開始して適切にバックアップを始めます。

NetBackup の操作上の注意事項

NetBackup for SharePoint Server は、NetBackup の機能を拡張して、SharePoint データベースのオンラインバックアップとリストアを実行可能にしています。この項では、NetBackup 8.1 の NetBackup for SharePoint に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ホスト名または IP アドレスがホスト ID にマッピングされていない場合、SharePoint GRT のリストアが失敗する場合がある

NetBackup ホストのすべての SharePoint のフロントエンドとバックエンドのホスト名または IP アドレスが、対応するホスト ID にマッピングされていない場合、そのホストに関連付けられている SharePoint Granular Recovery Technology (GRT) のリストアが、状態コード 2804 で失敗する場合があります。

この問題を解決するには、ホスト ID からホスト名への保留中のマッピングを承認します。

- 1 NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[セキュリティ管理 (Security Management)]、[ホスト管理 (Host Management)]の順に展開します。
- 2 詳細ペインで、[承認待ちのマッピング (Mappings for Approval)]タブをクリックします。
- 3 承認するマッピングを選択し、右クリックします。
- 4 右クリックして表示されたオプションで、[承認 (Approve)]をクリックします。選択したマッピングが承認されます。

または、右クリックして表示されたオプションで、[マッピングの詳細 (Mapping Details)]をクリックします。[マッピングの詳細 (Mapping Details)]ダイアログボックスを使用して、選択したマッピングを承認します。

個別リストアで、チェックアウトされたバージョン付きの文書またはファイルがスキップされる

次の既知の問題は、バージョン管理機能が有効で、バックアップの時点にチェックアウトされている文書またはファイルのリストアに関連して発生します。

- SharePoint 2010 の個別リストアでは、そのような文書またはファイルのリストアがスキップされます。リストアは、「この Web サイトへの追加は遮断されました (Additions to this website have been blocked)」というエラーで失敗します。
- SharePoint 2016 では、リストア後にバージョンが追加されます。親リストに失敗する可能性がある検証式を含む列がある場合、リストアジョブは失敗することがありますが、ファイルのコンテンツおよびその他の有効なメタデータはリストアされます。"checked-out" タグも項目から削除されます。

この問題を回避するには、リストアターゲットとしてリストを選択します。これにより、チェックアウトされた項目およびそのバージョンをリストアできます。ただし、この場合、"checked-out" タグが項目から削除されることに注意してください。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

サイトコレクションのリストア時に、修正したシステムファイルや非実体化ファイルがカタログ登録またはリストアされない

サイトコレクションのリストア時には、修正済みシステムファイルや修正済み非実体化ファイルはカタログ登録もリストアもされません。この問題は、SharePoint 2013/2016 で確認されています。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

リストアされた wiki ページが正しくない可能性があります

wiki サイトのページをリストアするのに GRT (Granular Recovery Technology) を使うと、リストアされた内容が正しくない場合があります。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

個別リカバリテクノロジー (GRT) を使って SharePoint 2016 のテンプレートから非実体化または未カスタマイズの ASPX ページをリストアすると、リストアジョブは成功しますが、リストアされたページは作成時のデフォルトコンテンツで表示されます。ASPX ページを SharePoint にアップロードする場合、この問題は発生しません。そのようなページは、カスタマイズ済みページとして扱われます。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の「SharePoint サーバー Web アプリケーションコンテンツデータベースの代替 SQL インスタンスへのリストアのリダイレクト」を参照してください。

NetBackup for Oracle の操作上の注意事項

NetBackup は、Oracle Recovery Manager (RMAN) のデータベースのバックアップ/リカバリ機能と NetBackup のバックアップ/リカバリ管理機能を統合します。このトピックでは、NetBackup 8.1 の NetBackup for Oracle に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Windows クライアント上の oradnfstab ファイル内の Oracle Copilot のマウントパスには ASCII 文字のみを含める必要がある

Windows クライアントでは、oradnfstab ファイルを Oracle Copilot バックアップに使用する場合、oradnfstab ファイルで指定するマウントパスには ASCII 文字のみを含める必要があります。マウントパスは現在国際化されていません。

NetBackup 重複排除に関する注意事項

NetBackup は、必要なぎりぎりデータソースに近い任意の場所でデータを重複排除できるいくつかの重複排除オプションを提供します。任意の場所での重複排除では、バックアップ処理のどの時点で重複排除を実行するかを選択できます。NetBackup は、NetBackup 重複排除エンジンを使用する環境の重複排除を管理できます。この項では、NetBackup 8.1 の NetBackup 重複排除エンジンに関する注意事項および既知の問題について説明します。

MSDP の互換性に関する最新情報について詳しくは、[NetBackup Enterprise Server とサーバー OS のソフトウェア互換性リスト](#)を参照してください。

信頼を更新せずに信頼できるマスターサーバーを削除すると、エラーメッセージが表示される

NetBackup 8.1 にアップグレードした後、信頼を更新せずに信頼できるマスターサーバーを削除すると、nbseccmd コマンドによって次のエラーメッセージが表示されます。

ユーザー認証に失敗しました (User authentication failed.)。ユーザー名、ドメイン、パスワード、トークンのいずれかが正しくありません (User name, domain, password or token is incorrect.) (5601)。

回避策: このエラーメッセージは不正確です。信頼を更新して、信頼できるマスターサーバーを削除する必要があります。詳しくは、『[NetBackup 重複排除ガイド](#)』を参照してください。

信頼できるマスターサーバーを追加するときに状態コード 6 メッセージが表示される場合がある

信頼できるマスターサーバーの追加の一部として、リモートマスターサーバーのバージョンも取得されます。ソースマスターサーバーがリモートマスターサーバーのバージョンを取得できない場合、次のエラーメッセージが表示されます。

終了状態 6: バックアップは、要求されたファイルのバックアップに失敗しました (the backup failed to back up the requested files)

回避策: このエラーメッセージは不正確です。信頼できるマスターサーバーの追加を再試行します。詳しくは、『[NetBackup 重複排除ガイド](#)』を参照してください。

NBAC が有効なときに NDMP イメージの複製が失敗する場合がある

NetBackup 設定で NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効になっている場合に NDMP イメージのバックアップが AdvancedDisk で作成され、同じホストの MSDP に複製されると、複製ジョブが状態コード 116 で失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

VxSS の認証に失敗しました (VxSS authentication failed)

このログエントリは、NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーのホストからのログで確認できます。

SHA-2 アルゴリズムを使用するデータのリストアに関する追加の制約

NetBackup 8.1 MSDP は SHA-2 フィンガープリントを導入しています。結果として、8.1 以前のクライアントでの Client Direct リストア使用時に制約が存在します。

メディアサーバーにバックアップを作成したデータを旧バージョンのクライアントからリストアするため、または新しい SHA-2 アルゴリズムを使用するメディアサーバーからリストアするために、Client Direct リストアを使用することはできません。ただし、SHA-2 をサポートするサーバーを使用してデータをリストアできます。

この制約は、NetBackup 8.1 の『[NetBackup 重複排除ガイド](#)』の「MSDP フィンガープリントについて」に記載されているその他の注意や制約に対する追加項目です。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 8.1 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズされた環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:
データファイルパス、表領域名
- SAP:
英語の SAP がローカライズされた OS 上で動作します (特定の SAP フィールドがローカライズされることはありません)。
- Exchange:
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:
ボルトストア、パーティション、データ
- VMware:
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 8.1 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Isilon NDMP バックアップから代替パスにリストアするときエラーが発生することがある

このエラーは、Isilon OneFS 8.0.0.1 に関連しています。

Isilon NDMP バックアップから代替パスにリストアすると、エラー (状態コード 2813: NDMP ポリシーのリストアエラー) が発生することがあります。指定された代替パス内のディレクトリの数が、選択したリストアパス内のディレクトリの数よりも少ない場合、リストアが失敗します。

メモ: EMC Isilon は、Isilon OneFS の今後のリリースでこの問題を修正する予定です。修正について詳しくは、Isilon のマニュアルと Dell EMC Isilon の Web サイトを参照してください。

回避策:

選択したリストアパスよりもディレクトリの数が少なくならないように、リストアの代替パスの指定を変更します。

次に例を示します。

- `/ifs/User_1` をバックアップするようにバックアップポリシーが設定されているとします。そのため、バックアップには `/ifs/User_1/0/000/000` などのサブディレクトリが含まれます。
- リストア用に `/ifs/User_1/0/000/000` を選択します。
この場合、選択したリストアパスには **3** つのディレクトリ (`0/000/000`) があります。
- 次に、リストアを代替パス (`/ifs/User_1/restore/`) に設定し、リストアジョブを実行します。
しかし、Isilon ファイラは代替パスの最初の要素 (`/ifs`) を無視し、`User_1/restore` という **2** つのディレクトリのみを認識します。
- 代替パス内のディレクトリの数が、選択したリストアパス内のディレクトリの数よりも少ないため、リストアが状態コード **2813** で失敗します。この場合、代替パスには **2** つのディレクトリ (`User_1/restore`) があり、選択したリストアパスには **3** つのディレクトリ (`0/000/000`) があります。

- 次に、代替パスを `/ifs/User_1/restore/test` に変更します。
Isilon が代替パスの 3 つのディレクトリ (`User_1/restore/test`) を認識する必要があります。この数は、選択したリストアパスのディレクトリの数と一致します。
- リストアが正常に完了するようになりました。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.1 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 8.1 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

VM ボリュームに複数のスワップファイルが含まれている場合に、バックアップから VM のスワップファイルが除外されない

Linux の VMware VM ボリュームに複数のスワップファイルが含まれる場合、NetBackup ポリシーオプション [スワップおよびページングファイルのエクスクルード (Exclude swap and paging files)] が機能しません。スワップファイルが VM のバックアップに含まれます。この問題は、NetBackup 8.1 と NetBackup 8.0 に影響しません。

NetBackup アプライアンスを使用した NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client のインストール

NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client のインストールに関する次の情報が、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』から削除されました。

マスターサーバーとして NetBackup アプライアンスから NetBackup プラグインをインストールするには

- ◆ NetBackup CLI ユーザーとしてアプライアンスにログオンして、vwcp_manage コマンドを実行してプラグインをインストールします。

たとえば、vcenter_server.example.com にプラグインをインストールする方法は次のとおりです。

```
vwcp_manage --register -v vcenter_server.example.com -u  
vcenter_username -p password
```

プラグインをアンインストールする方法は次のとおりです。

```
vwcp_manage --unregister -v vcenter_server.example.com -u  
vcenter_username -p password
```

前回の完全バックアップが期限切れになると VMware のブロックレベルの増分バックアップも期限切れになる

仮想マシンの NetBackup VMware ブロックレベルの増分バックアップは、同じポリシーを使用して作成した同じ VM の以前の完全バックアップによって決まります。VMware の完全バックアップが期限切れになると、完全バックアップに基づくその後の VM ブロックレベルの増分バックアップも期限が切れて削除されます。この期限切れは、増分スケジュールの保持期間に関係なく発生します。この問題は、すべてのバージョンの NetBackup for VMware に該当します。

メモ: この問題は、NetBackup アクセラレータのバックアップには該当しません。

NetBackup にリストア ESX サーバーのクレデンシャルがあるときに、VM の vCenter へのリストアが失敗する

NetBackup の[VMware リストア ESX サーバー (VMware Restore ESX Server)]オプション ([メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)], [クレデンシャル (Credentials)], [仮想マシンサーバー (Virtual Machine Servers)]の下)を使用すると、特定の ESXi サーバーが VM リストアのデータを移動できます。リストア先が (ESXi サーバーではなく) vCenter である場合、状態 2820「NetBackup VMware ポリシーリストアエラー」でリストアが失敗します。VM はリストアされますが、NetBackup は VM のスナップショットに戻れず、そのスナップショットを削除できません。

この問題を修正するため、NetBackup 8.1 緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) を使用できます。

回避策としては、vSphere インターフェースを使用して、リストアされる VM のスナップショットに戻りスナップショットを削除できます。

VM のスナップショットに戻ってこれを削除するには

- 1 vSphere Web Client 6.0 でリストアする VM を右クリックして、[スナップショット (Snapshots)]、[最新のスナップショットに戻る (Revert to Latest Snapshot)]の順に選択します。
- 2 もう一度 VM を右クリックして、[スナップショット (Snapshots)]、[スナップショットの管理 (Manage Snapshots)]の順に選択します。[VM スナップショットの管理 (Manage VM Snapshots)]ダイアログを使用してスナップショットを削除します。

お使いのバージョンの vSphere とスナップショットを削除する方法について詳しくは、VMware のマニュアルを参照してください。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のように多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。

- **Hotfix と EEB Release Auditor**
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムとベリタスエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**
このツールを使用すると、今後新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後置き換えられることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには **NetBackup** の特定の機能、他社製品の統合、ベリタス製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-1

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.58 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.58 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.59 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。 p.60 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス(Email 電子メールアドレスを入力し、検証してください
address)

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)]ウィジェットを見つけて選択します。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。**NetBackup** では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。

3 [データコレクタ (Data Collectors)]タブを選択します

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。

6 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。

7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。

8 メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。

9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。

10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。

12 インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。

14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。ベリタスはフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.58 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.59 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.60 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.62 の「 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法 」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.62 の「 Hotfix と EEB の情報を確認する方法 」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

4 [検索 (Search)]をクリックします。

5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが表示されます。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 8.1 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストールに関する詳細な説明は、『NetBackup インストールガイド』、『NetBackup アップグレードガイド』、『NetBackup スタートガイド』に記載されています。

p.33 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 8.1 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、/usr/openv/db/data (UNIX) または
<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data (Windows) のディレクトリを含む

ファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への **NBDB** データベースファイルの格納の詳細については、『**NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- マスターサーバーとメディアサーバーでは、**NetBackup** を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を **8000** にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響について詳しくは、ベリタスのサポート Web サイトの次の **TechNote** を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- **Windows 2008、Vista、2008 R2** の **UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、**UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールできません。
 管理者グループのユーザーが **NetBackup** をインストールできるようにするには、**UAC** を無効化します。
- **NetBackup** のマスターサーバーとメディアサーバーは、起動時および **24** 時間ごとに **NetBackup** サーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは **vmd** サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- メディアサーバーのアップグレードの実行中は、マスターサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは **gzip** を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには **gunzip** と **gzip** が必要なので、**NetBackup** をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。**HP-UX** を除くすべての **UNIX** プラットフォームでは、パイナリは **/bin** または **/usr/bin** に存在し、このディレクトリが **root** ユーザーの **PATH** 変数に含まれていると想定されています。**HP-UX** システムでは、**gzip** コマンドおよび **gunzip** コマンドは **/usr/contrib/bin** に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、**PATH** 変数にこのディレクトリが追加されます。**UNIX** でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup の互換性リストにリストされるオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、ベリタス社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 は、NetBackup 8.1 で必要な OS 更新およびパッチを示しています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 8.1 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必要な OS パッチ情報は、Veritas Services and Operational Readiness Tools (SORT) Web サイトおよび NetBackup 互換性リストで確認できます。

p.73 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.56 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

メモ: OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わるより最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。ここおよび SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると考えする必要があります。表 B-1 にリストされているものに優先されるまたはそれらに置き換わる OS 更新、パッチ、またはパッチバンドルは、特に指定されていない限りサポートされます。ベリタス社は、個別の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

メモ: 表 B-1 に記載されている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールする必要があります。

表 B-1 **NetBackup 8.1 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新**

オペレーティングシステムの 種類とバージョン	NetBackup の役 割	パッチ	注意事項
AIX 6.1	マスター、メディア、 クライアント	AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降で ある必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する 必要がある場合があります。
Beijing Linx Software Corp Linx OS	マスター、メディア、 クライアント	カーネル 2.6.32.26 以降	
CentOS 6.x	マスター、メディア、 クライアント	カーネル 2.6.32-608.el6 以降	
CentOS 7.x	マスター、メディア、 クライアント	カーネル 3.10.0-241.el7 以降	
Debian 8	マスター、メディア、 クライアント	カーネル 3.16.7-1 以降	詳細情報を参照できます。 Debian 8 リリースノート
HP-UX	マスター、メディア、 クライアント	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をイ ンストールする場合、このパッチが必 要になります。
HP-UX IA-64	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
HP-UX 11.31	メディア (Media)	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバンドル	このパッチバンドルは NetBackup メディアサーバーのサポートに必要です。これは HP-UX March 2010 パッチバンドルです。
Oracle Linux 6	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-504.14.1 以降	詳細情報を参照できます。 カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新
Oracle Linux 7	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.1 以降	詳細情報を参照できます。 カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新
Red Hat Enterprise Linux 6	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-504.16.2.el6 以降	詳細情報を参照できます。 Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:0864 - セキュリティアドバイザリ
Red Hat Enterprise Linux 7	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.2.el7 以降	詳細情報を参照できます。 Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:1137 - セキュリティアドバイザリ
SUSE Linux 11	マスター、メディア、クライアント	SUSE Linux Enterprise 11 Service Pack 3 以降	詳細情報を参照できます。 Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2014:1695-1
SUSE Linux 12	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.12.31 以降	詳細情報を参照できます。 Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2015:0068-1
Windows Vista x86-64	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新 (推奨)
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Windows Server 2008 x86-64 (SP2)	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。
Windows Server 2008 x86-64 R2	マスター、メディア、クライアント	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状況で I/O パフォーマンスが低下する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB983544	レジストリハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

- ベリタスでは、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の更新をお勧めします。
 - Microsoft Storport の Hotfix。この Hotfix は、Windows x86 および x64 の SP1 と SP2 の両方に適用されます (必須)。
<http://support.microsoft.com/?id=932755>
 - Symantec AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
 - SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

NetBackup 8.1 のバイナリサイズ

表 B-2 には、NetBackup 8.1 マスターサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。

メモ: 表 B-2 および 表 B-3 は、サポートされているオペレーティングシステムのみのリストになっています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

p.56 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

表 B-2 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER		1622 MB	8053 MB	
Canonical Ubuntu	x86-64		1595 MB		
CentOS	x86-64		1042 MB	6252 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Debian GNU/Linux	x86-64		1595 MB		
HP-UX	IA-64		2117 MB	9366 MB	
OpenVMS	IA-64		128 MB		表示されているサイズは、NetBackup 7.5 バイナリ用です。OpenVMS の NetBackup 8.1 バイナリは提供されません。
Oracle Linux	x86-64		1053 MB	6254 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		1053 MB	6946 MB	

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture		840 MB	3661 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Solaris	SPARC		1127 MB	6326 MB	
Solaris	x86-64		1129 MB	6451 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		1013 MB	6750 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture		834 MB	3610 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-32	833 MB			互換性のあるすべての Windows x86 プラットフォームが含まれます。
Windows	x86-64		646 MB	1343 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、[表 B-2](#) にリストされている合計バイナリサイズの **40～50%** になります。
- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、[表 B-2](#) にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの **15～20%** です。

NetBackup OpsCenter

[表 B-3](#) には、**NetBackup OpsCenter 8.1** と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の **OpsCenter Agent**、サーバー、および **ViewBuilder** のおよそのバイナリサイズが含まれます。

表 B-3

互換性のあるプラットフォームの NetBackup OpsCenter のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Oracle Linux	x86-64		644 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		644 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		734 MB	
Windows Server	x86-64	245 MB	666 MB	225 MB

NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン用ディスク容量要件は、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』および『Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインガイド』にそれぞれ記載されています。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.56 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができているか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にある Veritas のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

メモ: 相互に互換性のある NetBackup のバージョンについての情報が必要な場合は、互換性リストから[NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)]を選択してください。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

ベリタス社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。ベリタス社は、今後も **NetBackup** システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- **General Availability** リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい **NetBackup** の機能

ベリタス社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、**NetBackup** のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

ベリタス社は **NetBackup** のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。ベリタス社は、**NetBackup** の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび **End-of-Life (EOL)** 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、**Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup** のホームページにあるウィジェットから入手できます。**SORT for NetBackup** のホームページにある[**NetBackup** のプラットフォームと機能の今後の予定 (**NetBackup Future Platform and Feature Plans**)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の **End-of-Support-Life (EOSL)** 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.56 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 8.1 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.12 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)
- [NetBackup リリースノートについて](#)
- [NetBackup 管理者ガイドについて](#)
- [NetBackup のインストールマニュアルについて](#)
- [NetBackup の構成マニュアルについて](#)
- [NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて](#)
- [その他の NetBackup のマニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

メモ: UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

ベリタスは、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。これらのドキュメントはリリース形式にしたがって NetBackup の新しいバージョン向けに公開されています。

特に指定のないかぎり、NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードできます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

メモ: ベリタスは、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

NetBackup リリースノートについて

NetBackup ソフトウェアには、次のリリースノートドキュメントが公開されています。

- **NetBackup リリースノート**
このマニュアルには、UNIX と Windows のプラットフォーム両方に対応する NetBackup の今回のリリースに関するさまざまな情報が含まれています。この情報には、新しい機能、プラットフォームの互換性の変更、パッチの必要条件、マニュアルの修正、既知の問題が含まれていますが、これらに限定されるものではありません。NetBackup のマニュアルやオンラインヘルプの他の場所で見つからない可能性がある操作上の注意事項も含まれています。
- **NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド**
次のドキュメントには、すでに特定、解決され、NetBackup ユーザーが Emergency Engineering Binary (EEB) の形式で利用可能になった既知の問題の一部が示されています。ここには、指定のリリースで修正されているが、EEB では修正されなかった可能性のある問題の一部が示されています。

NetBackup 管理者ガイドについて

次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**
このマニュアルでは、UNIX または Windows サーバー上で NetBackup を構成して管理する方法について説明します。このマニュアルでは、NetBackup インターフェースについてと、ホスト、ストレージデバイスとメディア、ストレージライフサイクルポリシー (SLP)、バックアップ、レプリケーション、監視と報告を構成する方法について説明します。
- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 2**
このマニュアルでは、NetBackup のための追加の構成とインターフェースオプションについて説明します。このマニュアルには、NetBackup ライセンスについての参照項目と情報も含まれています。

NetBackup オプションの管理について

NetBackup オプションの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup AdvancedDisk ストレージソリューションガイド**

このガイドでは、**NetBackup AdvancedDisk** ストレージオプションを構成、管理、トラブルシューティングする方法について説明します。**NetBackup** に公開されているディスクストレージをバックアップ用のファイルシステムとして使う方法について説明します。

- **NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド**
 このガイドでは、サーバーのリカバリ処理を自動化して簡素化するために **NetBackup BMR (Bare Metal Restore)** ブートサーバーとクライアントのインストール、構成、管理を行う方法について説明します。
- **NetBackup クラウド管理者ガイド**
 このガイドでは、**Veritas OpenStorage** を使ってクラウドの **STaaS (Storage as a Service)** ベンダーからデータのバックアップとリストアを行うために **NetBackup** を構成し、管理する方法について説明します。
- **NetBackup DataStore SDK プログラマガイド XBSA**
 このガイドでは、**XBSA API** を設定して **NetBackup** と通信するアプリケーションのバックアップを作成したり、アプリケーションをアーカイブしたりするために使う方法について説明します。
- **NetBackup 重複排除ガイド**
 このガイドでは、**NetBackup** メディアサーバー重複排除オプションを使って **NetBackup** 環境のデータ重複排除を計画、構成、移行、監視、管理する方法について説明します。
- **NetBackup ログリファレンスガイド**
 このガイドでは、**NetBackup** 管理コンソールからレポートを実行する方法やログがシステムのどこに保存されているかなど、直面する問題をトラブルシューティングする場合に役立つ各種の **NetBackup** のログやレポートについて説明します。
- **ディスクの NetBackup OpenStorage のソリューションガイド**
 このガイドでは、**NetBackup** でバックアップ用にインテリジェントディスクアプライアンスを構成し、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for VMware 管理者ガイド**
 このガイドでは、**VMware ESX** サーバーで動作する **VMware** 仮想マシンのオフホストバックアップのような機能を実行するために **NetBackup** を構成する方法について説明します。
- **NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client**
 このガイドでは、**NetBackup** 用の **vSphere Web Client** プラグインをインストールしてトラブルシューティングする方法について説明します。**vSphere Web Client** プラグインを使うと、**vCenter** サーバーが管理する仮想マシンのバックアップの監視、バックアップからの仮想マシンのリカバリ、**VM** のバックアップ状態や関連メッセージの監視が可能です。
- **NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド**

このガイドでは、Windows Hyper-V サーバーで動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップポリシーを構成して管理する方法について説明します。

- **NetBackupAdd-in for Microsoft SCVMM Console ガイド**
 このガイドでは、NetBackup Add-in for SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) をインストールしてトラブルシューティングする方法や、NetBackup バックアップイメージから仮想マシンをリストアする場合にこのアドインを使う方法について説明します。
- **『NetBackup for NDMP 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』**
 このガイドでは、NAS (Network Attached Storage) システムのバックアップとリストアを開始し、制御するために NetBackup for NDMP (Network Data Management Protocol) をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』**
 このガイドでは、NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットとスナップショットレプリケーションの実装方法について説明します。スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。
- **NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド**
 このガイドでは、ファイバートランスポート方式を使ってクライアントバックアップを高速化するために NetBackup SAN クライアントの機能を設定、構成、管理する方法について説明します。
- **NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド**
 このガイドでは、VMware、Hyper-V、Replication Director との統合などのさまざまなスナップショットベース機能を有効にするために NetBackup Snapshot Client をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup Vault 管理者ガイド**
 このガイドでは、オフサイトメディアストレージのためにバックアップイメージの選択と複製を自動化するように NetBackup Vault をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup Vault 操作ガイド**
 このガイドでは、NetBackup Vault を使って 2 つの主要な作業分野 (管理と操作) の一部としてメディアを Vault 処理する方法について説明します。説明する作業には、オフサイトにテープを送付し、サイトでテープを受け取り、オフサイトメディアと Vault ジョブでレポートを実行する手順が含まれます。
- **NetBackup WebSocket サービス (NBWSS) リファレンスガイド**
 このガイドはクラウドアプリケーションと通信するために NetBackup WebSocket サービス (NBWSS) を使用する方法について、および NBWSS 用に WebSocket エンドポイントを設定する方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter 管理者ガイド**

このマニュアルでは、**NetBackup OpsCenter** ユーザーインターフェースを使って **NetBackup** とそのエージェントとオプションについてのレポート、監視、警告を提供する方法について説明します。

- **NetBackup OpsCenter レポートガイド**
このガイドでは、**NetBackup OpsCenter** を使って包括的なビジネスレベルのレポートを生成して使用し、データバックアップ操作やアーカイブ操作の有効性をトラッキングする方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter パフォーマンスチューニングガイド**
このパフォーマンスと調整のマニュアルは、**OpsCenter** のパフォーマンスを分析、評価、調整する管理者を対象にしています。このマニュアルは、**OpsCenter** が最大のパフォーマンスを実現するように調整する方法、バックアップ環境に応じて **OpsCenter** に採用するシステム構成、向上した **OpsCenter** のパフォーマンスにかなうベストプラクティスについてアドバイスすることを意図しています。

NetBackup データベースエージェントの管理について

NetBackup データベースエージェントの次の管理者ガイドが、**NetBackup** ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup for DB2 管理者ガイド**
このガイドでは、**NetBackup for DB2** データベースエージェントをインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド**
このガイドでは、**Veritas Enterprise Vault** の構成情報とアーカイブデータを保護するために **NetBackup for Enterprise Vault Agent** をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Informix 管理者ガイド**
このガイドでは、UNIX 版 **NetBackup** クライアント上で **Informix** データベースのバックアップとリストアを行うために **NetBackup for Informix** エージェントをインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド**
このガイドでは、**NetBackup** クライアントで **Lotus Notes** データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために **NetBackup for Lotus Notes** エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- 『**NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド**』
このガイドでは、**Microsoft Exchange Server** のオンラインバックアップとリストアを行うために **NetBackup for Exchange Server** エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド**

このガイドでは、Microsoft SQL Server データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Microsoft SQL Server エージェントを構成し、使用する方法について説明します。

- 『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』
 このガイドでは、Windows 版 NetBackup クライアント上の SharePoint データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SharePoint Server エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- NetBackup for Oracle 管理者ガイド
 このガイドでは、NetBackup クライアント上の Oracle データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Oracle エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- NetBackup for SAP 管理者ガイド
 このガイドでは、NetBackup クライアント上の SAP データベースと SAP HANA データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SAP エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- NetBackup for Sybase 管理者ガイド
 このガイドでは、NetBackup クライアント上の Sybase データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Sybase エージェントを構成し、使用する方法について説明します。

NetBackup のインストールマニュアルについて

次のインストールマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- NetBackup インストールガイド
 このマニュアルでは、UNIX や Windows のプラットフォームに NetBackup サーバー、クライアント、管理ソフトウェアをインストールする方法について説明します。
- NetBackup LiveUpdate ガイド
 このマニュアルでは、環境内の NetBackup ソフトウェアリリースの配布に関するポリシーに基づいた方法を提供するための NetBackup LiveUpdate サーバーを設定する方法を説明します。
- NetBackup アップグレードガイド
 このマニュアルは、NetBackup ソフトウェアのアップグレードの計画と実施を支援します。このマニュアルは最新情報を提供するために定期的に更新されます。
- NetBackup クイックスタートアップグレードガイド
 このガイドの目的は、『NetBackup アップグレードガイド』を経験豊富なユーザーに向けて補足することです。このガイドに記載されている情報は、ユーザーがアップグレードの前提条件をすでに読み、理解していることを前提としています。このガイドの使用

は、初心者または経験の浅い NetBackup 管理者には推奨されません。経験の浅い管理者は、『NetBackup アップグレードガイド』を使用してください。

NetBackup の構成マニュアルについて

NetBackup オプションの次の構成ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- NetBackup デバイス構成ガイド。
このガイドでは、NetBackup サーバー用に使うストレージデバイスホストのオペレーティングシステムを設定し、構成する方法について説明します。

NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて

次のトラブルシューティングガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- NetBackup トラブルシューティングガイド
このガイドは、一般的なトラブルシューティングに関する情報を提供し、NetBackup 製品と機能のために使えるさまざまなトラブルシューティング方法を説明します。
- NetBackup 状態コードリファレンスガイド
このガイドには、NetBackup、Media Manager、デバイス構成、デバイス管理、ロボットエラーの状態コードの完全なリストが記載されています。各状態コードのリストには説明と推奨処置が含まれています。

その他の NetBackup のマニュアルについて

次のマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- NetBackup コマンドリファレンスガイド
このガイドには、NetBackup のマニュアルページのコマンドすべてを含む、UNIX システムと Windows システムで動作するコマンドについての詳細情報が含まれます。
- NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド
このガイドでは、クラスタで NetBackup マスターサーバーをインストールして構成する方法について説明します。
- NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド
このガイドでは高可用性環境で NetBackup を使う各種方式を説明し、単一障害点から NetBackup を保護するためのガイドラインを示します。
- NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド

このガイドでは、アクセス制御、強化された認可と認証、暗号化を使って NetBackup を保全する方法について説明します。

- **NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド**
 このガイドでは、マスターサーバーとメディアサーバーのポート、クライアントポート、デフォルトポート、その他の NetBackup が使うポートを含む NetBackup ネットワークポートの参照情報を示します。
- **NetBackup スタートガイド**
 このガイドでは、NetBackup のこのリリースと関連しているインストール前の情報についての概要を提供します。ガイドにはまた、NetBackup メディアキット、NetBackup 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ、NetBackup ライセンスキーの要件の説明も含まれます。
- **NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド**
 このマニュアルでは、NetBackup の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。これらの手順には、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブ、リストアする方法も含まれます。
- **NetBackup サードパーティの法的通知**
 この文書には、Veritas NetBackup 製品と OpsCenter 製品に関係するサードパーティプログラム (適用される場合) の所有権通知とサードパーティプログラムのライセンスが含まれます。